

「きりかえせ！」と叫ぶ声

(小2 4月～6月 くにとりゲーム)

山本 敦子 (大阪市立東小橋小)

1. はじめに

5月10日に公開授業があるので、4月後半から授業を始めることにする。この時期に、この教材をするのは初めてで、低学年の1学期と3学期では、伝わることはかなり違って、私が思うところまで進むことができるのだろうかと思ったりする。しかし、持ち上がりの2年生なので、2か月前にやっていた「くにとりゲーム」のことだから、忘れていても、思い出すのもはやいだろうと思う。とにかく、引き受けてしまったことだから、やるしかないのだ。

2. 単元

「くにとりゲーム」(フラッグフットボール)
2対1 試しのゲーム

(1年生での学習を思い出す。)

→グループ練習(「きりかえし」の学習)→
ゲーム→グループ練習

2対2 試しのゲーム
→グループ練習(2人のドラゴンの約束)→
ゲーム→グループ練習→ゲーム

王様の道は、2通り。○右ラン ○左ラン

この2つの道を通るために、

○すぐに行きたい道の方へ走る。

○王だけが小さく反対側に動いてドラゴンを反対に一瞬行かせて、そのすきに行きたい道を走る。

●ドラゴンに道をおさえられそうになった

ときに、2人で切り返す道を選ぶ。

切り返しという考え方を選んだのは、2年前の実践で、「曲がり道」という王の通り道を付け加えてやったところ、曲がる必要もないのに、曲がって、しっぽを取られてしまうという状態になったからだ。そのときは、苦し紛れに、子どもからの発見をもらって、「心はまっすぐ曲がり道」という考え方にしたが、それなら、追い詰められる状況を読み取って、2人で一緒に切り返すという考えの方が、わかりやすいのではないかと考えた。

ディフェンスについては、2人のドラゴンの動き方について、考えさせたい。

コート 縦 約14メートル、
横 約9メートル。

ボール 紅白玉(持ちやすさを考えて、王様とわかるための目印として)

役割の呼び名

QB…「王様」

オフェンスガード…「守り神」

ディフェンス…「ドラゴン」

3. 子どもたち

大阪市立東小橋小学校2年 18名
(男子8名 女子10名)

気になる子は3人いる。

特別支援学級に1日1時間通っている○さん(2班)。1年生の実践では、つっこ

みドラゴンを発明して、自分もドラゴンになったつもりで、飛び上がってドラゴンをしていた。2人のドラゴンになったときに、コンビネーションはできるだろうか。守り神も2人のドラゴンになったら、混乱しないだろうかと心配だ。

Nさん(1班)は、2年生になってから、特に算数の時間、わからなくなると、何もしなくなる。固まってしまう。休み時間になると、Oさんと一緒に「先生、あそぼ」と誘いに来てくれるのだが、わからないことが、迫ってくると、話もしなくなる。切り返しは、わかってくれるだろうか。

1週間のうち、必ず1～2日は、休んでしまうIさん(3班)。学習もできるようになりそうだったときに、休んでしまうので、また、もどってやりなおさなければならない。それが、いやで、また休んでしまうという悪循環。しかし、1年生の頃より、休みは少なくなっている。友だちと喜び合える楽しさを経験してほしい。

4. 実践するにあたって

- (ア)子どもたちからでてくる動きや気づきから、教えるなかみを考えていく。
- (イ)授業の場面や感想文から、グループ学習の様子を探る。

5. 目標

- (ア)国を広げるための2人(王と守り神)の動き方がわかり、切り返しの約束を決めて、攻めることができる。
- (イ)2人のドラゴンの動き方を考えて、2人で国を守ることができる。
- (ウ)プレーを振り返って、課題をみつけてグループで教え合って練習することができる。

6. 授業過程(全 16 時間)

次	時	学習活動	めあて
I	1	グループ発表	・グループの発表。
	2	ゲーム	・2対1のためしのゲームをする。
	3	グループ練習	・「すぐ」「だまし」のこつを思い出す ・王と守り神のスタート、王の動き。
	4		・まずまっすぐちかづく、追い詰められたらどうする。
	5		・ピンチの時の2人での切り返し
	6		・2人が切り返すときの約束。
	7	ゲーム	・切り返しの約束をしてからゲームをする。
	8	グループ練習	・ゲームでうまくいかなかったところの練習
II	9	ゲーム	・2人のドラゴンの約束を考える。
	10	グループ練習	・守り神は前ドラを止める。王は後ろに下がるらない。
	11	ゲーム	・点数のつけ方。ルール。
	12	グループ練習	・ドラゴンの4つの作戦。
	13	グループ練習	・王と守り神は、スタートは、約束どおり。 ・守り神は、前ドラから王を守る。 ・誰のなんの練習が必要なのか話し合ってはじめる。
	14	ゲーム	・どんなとき、どんな作

	15	ゲーム	戦を選ぶべきなのかを相談。 ・それぞれの役割を確かめてドラゴンの選ぶ作戦によってどう動いたらいいのか考える。
Ⅲ	16	振り返り	・感想文を読みあう。 ・名場面集を見る。

7. 結果

(ア)国を広げるための2人(王と守り神)の動き方がわかり、切り返しの約束を決めて、攻めることができる。

いつ、どんな約束や、やり方で、切り返しができるようになったのか、映像が残っているなかで、初めて切り返しのできた場面を、グループのペアごとに調べてみた。

王・守り神

1班 N・K 5/23 ⑦ 守り神が王に「切り返し」と言った。

K・H 5/30 ⑨ 王が先に動いて、その後守り神が動く。

H・A 5/23 ⑦ 2人同時に、切り返し。

A・N 5/23 ⑦ 守り神が先に動いて、その後、王が動く。

(5/16⑤では、コーチが「切り返す」って言う約束をしていたが、コーチが言わなかったら、動けないので、コーチに任せないほうがいいということになったようだ。)

2班 O・I 5/16 ⑤ ?ドラゴンがいない道を選んだ。

I・Y 5/16 ⑤ コーチが「切り返し」と言った。

Y・R 6/5 ⑪ 2人同時に、切り返し。

R・F 5/23 ⑦ 2人同時に、切り返し。

F・O (Oさんが守り神の意味がわか

ったのは、6/13⑬になってから)

3班 I・K 6/13 ⑬ 守り神が王に「切り返せ」と言った。

K・S 5/16 ⑤ コーンに出そうになる前に切り返す。

S・M 5/20 ⑥ コーチが2人で「切り返せ」と言った。

M・Y 5/16 ⑤ どっちかがコーンを踏みそうになったら。

Y・I 6/5 ⑪ コーチが「切り返し」と言った。

(6/13 ⑬では、Iさんの感想に、「切り返しことができました。Mちゃんが、切り返しは、赤のコーンの道がなかったら、青のコーンに行きやって教えてくれた」と書いている)

4班 S・R 5/16 ⑤ 守り神が「切りかえ」と言った。

R・N 5/20 ⑥ コーチが2人で「切りかえ」と言った。

N・H 5/16 ⑤ 王が「切りかえ」と言った。

H・S 5/29 ⑧ 2人同時に、切り返し。

5/16 ⑤では、切り返すときの約束をペアの2人で相談させて練習用紙に書かせている。

1班 ・追い詰められたら、コーチが「切り返す」って言う。・すぐ切り返す。・線を出ないようにちゃんと守る。・2人で切り返す。

2班 ・3つ目のコーン。・コーチが声を出す。・はみ出る前に切りかえる。

3班 ・守り神が守って通れないと思ったら切りかえる。・どっちかがコーンを踏みそうになったら切りかえる。・はしっこでしっぽが取られそうになったら切り返す。・コーンに出そうになる前に切り返す。

4班 ・追い詰められたら切りかえ。・切りかえるとき言う。・追い詰められたらコーチが「今」と言って、切りかえる。

この日の感想「王の時は、守り神についていけばいいと分かった」と3班のMさん。

5/20 ⑥では、4班のNさんが、授業のはじめに、「自分が王の時は、守り神が1歩踏み出す足を見て、それを見て切り返して言いながら自分も方向をかえている」と発言。

こう見ていくと、切り返しをするタイミングについて、ペアの2人やグループで同じ物差しをもてるようになったら、切り返しのスタートが一緒にできるようになるのだと思う。

その後、守り神がドラゴンをおさえるためには、守り神の体の使い方や、ドラゴンとの距離がポイントになってくるだろうと思うが、そこまで、突き詰めることはできなかった。

(イ)2人のドラゴンの動き方を考えて、 2人で国を守ることができる。

去年は、一人のドラゴンだったので、「突っ込み」か「待ち」の作戦しかなかったが、2人になることで、2人の約束がうまれる。ドラゴンの学習は、子どもたちの考えを拾い集めて整理していくかたちで、進めていった。

5/29 ⑧・はさみうち作戦

- ・前ドラが突っ込んで後ろドラが待ち(つつまち)
- ・順番交代 2班

5/30 ⑨ 待ちはさみうち作戦の弱いところ
⇒ 一人が無駄になってしまう。

6/3 ⑩・つつまち

- ・2人つつこみばさみ
- ・2人まちまち
- ・順番交代

6/10 ⑫ どんなとき(あとどれくらいでゴールか?何点差か?)に、どんな作戦を選ぶべきなのか、グループで相談して決めること。

「2人まちまち」が発明されてから、しっぽを取る確率が高いから、選ぶペアが多くなったが、2人とも後ろに下がってしまうため、王に2~3点は、取られてしまう。そのことが、グループ練習のなかでは、なかなか意識されず、6/6⑩-2で、2つの映像を見せて、考えさせたが、最後は、私からの強引な説明をしてしまった。それでわかった班はその後「2人まちまち」を選ばなくなったが、ゲームのなかでも、ゴールまでもう1メートルもないところから王がスタートするのに、ドラゴンは「2人まちまち」を選んでいた1班。まだ、意味がわかっていないのだと思う。

ドラゴンの2人の作戦を考えだすのは、こちらから、何の手がかりも与えずに自由にやらせた。初めてでてきたのが「順番交代」(一人目のドが抜かれたら、その人は2人目のドの後ろに行って、2人目のドが抜かれたらつつこむ)2班が発明した。それを理解して、つつまちと合体させた3班のSさん。

ドラゴンの作戦は、整理は必要だが、子どもに任せることができると思った。

どの場面で、どの作戦を選ぶのかという根拠を考えさせたいと思っていましたが、どういう場面に出合わせたいのかを私をもっと考えておくべきであったと思う。そのうえで、その場面に出合えるようなゲームの進め方をこれから、考えていきたい。

(ウ)プレーを振り返って、課題をみつけてグループで教え合って練習することができる。

5/16⑤で、4班のSさんがコーチの時、プレーのすぐ後に「守り神のHちゃんが、王よりはやく行ったから、しっぽとられたんやで」と、的確なアドバイスをした。そのとき、すぐ横に私もいて聞いていたし、そのことをSさんが感想にも書いていたので、次の時間、コーチがプレーのすぐ後でアドバイスするこ

とが大事なんだと取り上げた。

5/20 ⑥で、3班は練習の方法として、「わたしはコーチで、そのときに練習するときに、1回目は普通に練習して、2回目はわざとドに追い詰めさせて切り返す練習をした」とKさんが書いている。ドラに行く方向を知らせない場合と、知らせて追い詰めさせる場合とを練習している。次の時間、みんなに紹介。

6/6⑩-2で、3班は、グループ練習の時に、それぞれが苦手な役割を練習することにしたようだ。この日は、映像を撮っていなかったので、確かめられないのが残念。

8. 考察

(ア)子どもたちからでてくる動きや気づきから、教えるなかみを考えていく。

2対1

ドラ 王の行く方を見て端に追い詰める⇒
王 追い詰められたら王だけが切り返す⇒
ドラ 切り返した後の王を狙う ⇒
王 王と守り神が一緒に切り返す ⇒
ドラ 端に行ったら守り神から離れて守る

2対2

ここから付け加えたルール

- ドラは、王が動いてから動くこと。
- 王が「セットレディーゴー」を言う。

ドラ 待ちドラではさみうち作戦 ⇒
王 反対のドラが戻らない間に行く ⇒
ドラ 前ドラがつっこんで王を狙う ⇒
王 守り神は前ドラから王を守る ⇒
ドラ 2人つっこみばさみ作戦 ⇒
王 王が行く方に来たドラを止める ⇒
ドラ つっこみと順番交代の合体

2対2にした後、プレー後半に1対1の場面に出会うことができた。そこでは、1対1の学習を思い出して、あいている道を進む

ことや、あいていなければ道をあけさせて進むことをするべきだと思う。

王チームの2人のコンビネーションは、プレー前半で、約束通りするという前提で。

(イ)授業の場面や感想文から、グループ学習の様子を探る。

3班のMRIをつくった。(Iちゃんの記述とメンバーの技術認識と声に注目して)

最後の日の最後の対戦で、やっと王様のときの切り返しができるIちゃん。この実践の16時間のうち、5時間欠席しているIちゃんが、どんなふうにして、切り返しができる道をとったのか確かめたい。

①は、ただ一人S君だけは、守り神の動きをきっちり覚えていて、サンドイッチになれていて、他のメンバーは、自分のできなかったところに目を向けている。

②では、Iちゃん以外は、S君のうまい守り神のプレーについて、書いて、サンドイッチのうまいS君に注目している。

③から、2年生で学習する新しい課題が出てくる。しかし、この班では、追い詰められる場面がでてこない。そのことを、Mちゃんが、「今日の練習ができない」と、私に指摘。

④では、昨日欠席のIちゃんにMちゃんが切り返しを教えている。たった1つだけ映像にあった切り返しの場面で、なんと王のIちゃんが切り返していて、守り神のO君が切り返せていない。「切り返し～」と声を掛けているのは、私だけ。

⑤は、欠席のIちゃん以外の4人とも、切り返しのタイミングが合ったプレーができた。しかし、プレー中、「し～ん」としている。

⑥は、4班との試合で、切り返しが2回もできた。コーチのMちゃんは、切り返すその瞬間に「切り返し」と言ってる。コーチのOちゃんは、成功した後で、「切り返しOK!」と、

喜びの声を上げている。この日は、試合だったので、よく声が出たのかもしれない。

7では、1回切り返しが成功したが、その時は声なし。切り返しのタイミングが早すぎたS君にMちゃんは、「なんでそんなに早いのか」とプレー後すぐに言っている。多分S君は、前時の試合で、早いタイミングの切り返しを成功させているので、そのことが残っているのだろう。Oちゃんは、昨日の試合でされたドラゴンを自分もやっている。

8では、3班が一番最初に「つまち」のドラの作戦を発明した。Oちゃんが「切り返せ」とひとつのゲームでコーチの時に言う。

9、Oちゃんは、王様の時、自分の切り返しのタイミングは少し遅れたけど、守り神にむかって、「切り返し」と言っている。感想にIちゃんとS君の書いた場面が同じだった。

10は、Oちゃんは、切り返しの必要なかった1つのゲーム以外、全部「切り返し！」と叫んでいる。Oちゃんと、S君は、ドラゴンについていろいろ考えている。

11で、Oちゃんは、自分が守り神の時、王のIちゃんに「切り返して切り返して」と声を掛けている、でも、Iちゃんは、切り返せなかった。次に、Iちゃんが守り神でS君が王様の時、コーチのMちゃんが「切り返し」と言って、2人で一緒に切り返しができる。

12は、切り返しを出す場面は一度もなく、ドラゴンが進化している3班4班だった。

13で、今度はIちゃん、Oちゃんの「切り返し切り返し」の声と同時に切り返すことができた。そのあと、S君が跳び上がって喜んでいるのが写っている。

全体を通してみていくと、その時間の課題をいつも気にしているのは、Mちゃん、たぶんゲーム記録の用紙に○がつくようにしたいという思いが強いからだろうと思う。そのうえ、理屈としてわかっていることも多い。だから、休んでいたIちゃんに切り返しのこ

とを説明できたのだと思う。5までは、プレー中の声はほとんどなかったが、6から、Mちゃんが、プレー中に「切り返し」と言って、Oちゃんが、プレー後に言って、そのあとは、特にOちゃんが、コーチの時も、自分のプレー中も、切り返しが必要な場面になると、ほとんど全部の場面で「切り返せ！」と叫んでいた。これは、わかったから、叫べたのだと思う。今の状況を見とる力がついたのだ。

感想に班の誰かと同じ場面のことを書いているときがある。これは、その場面に、2人に共通の大事なことが含まれているのだと思う。Iちゃんは、最初は誰とも同じ場面を書いていなかったが、9と11と13で、稚拙ではあるが、同じ場面のことを思っている。そして、13では、Mちゃんから教えてもらった切り返しのタイミングを自分の文章で綴っている。プレー直後のOちゃんの「OK！ナイス！！」の声やS君の跳びはねる姿は、Iちゃんに届いたはずだ。

9. おわりに

今年のこの「おわりに」のなかに、R君の「試合をいろいろやってきたけど、勝ち負けは関係ないから、ただ、勉強やから大丈夫」という最後の感想を引用して、「R君の思いを、つぎの実践でしっかり聞いてみたと思う」と結んだのだが、この実践の最後の試合が、全部引き分けで終わり、勝ち負けについての葛藤がほとんど出てこなかった。2班は、O君がわかるようにどうしたらいいかと、いろいろ考え合ったりしたが、それで、負けることが多くなるからいやだということがでてこなかった。というか、私がでてこないようにしていたのかもしれないなとも思える。O君も、みんなも、夢中になれるようなものを、一緒につくっていかなければ、その声がでてこないのかもしれない。